

# History 新野左馬助親矩

キラリを再発見

特別編

## 左馬武神社御守護符について

『新野村誌』(大正2年新野尋常高等小学校編纂)の第九古蹟に、「新野左馬之介之墓」について次のように書かれている。

「新野村に左馬之介様のお墓と唱うるありて有名なり日清戦役の当時如何なる動機なりけん矢玉よけの神として祭られ引継ぎ征露の役に大繁盛、幟の数、数百本参詣人の跡を絶たず戦熄んで今日一小祠を建て名づけて左馬武神社という」

日清、日露、また第一次、第二次世界大戦において、新野や近郷の士は左馬武神社に武運長久を祈念し、「左馬武神社御守護符」を頂いて戦場に向かったという。この守護符の一つは「弾丸除け」、もう一つは「釧難除け」で、これを誰もが心のよりどころとして肌身につけたとされる。

また、境内にある手水鉢は、明治28年に陸海軍兵士の武運長久を願って奉納されたもので、後面には池新田村合戸や旧大東町の中村、千浜村、大坂村などから19人の奉納者がいたことが記されている。



▲左馬武神社御守護符



▲奉納者の名が記された手水鉢

大河ドラマ「おんな城主 直虎」  
応援プロジェクト

照会 社会教育課 ☎0537-298735

# Atomic

暮らしと原子力

浜岡原子力発電所の  
建設申し入れから50年

― 当時を振り返って ―

〈中〉

1967年(昭和42年)、町は発電所建設の受け入れを表明しましたが、当時は原子力発電についてほとんど知られていないこともあり、町民から不安や反対の声が上がりました。しかし、佐倉地区などでの説明会や地権者との用地交渉、漁業関係者との漁業補償交渉など多くの話し合いが行われ、1968年(昭和43年)に発電所用地が決定しました。翌年には漁業関係者も「放射性物質が漏れないようしっかりと監視すること」などを条件に発電所の立地を認めました。

1971年(昭和46年)には、発電所周辺環境の安全確保を目的に、県と3町(旧浜岡町・旧御前崎町・旧相良町)、中部電力(株)との間で「安全確認等に関する協定」を締結しました。(※)

1976年(昭和51年)には



▲当時の反対運動の様子

1号機が完成、営業運転を開始し、翌年には大規模償却資産に係る固定資産税の増収などにより、町の財政力指数も1.02まで上がりました。(次号に続く)

※1981年(昭和56年)には、旧大東町、旧小笠町を含めた1県5町と中部電力(株)の間で「原子力発電所の安全確保等に関する協定書」を締結。